



ラムネのビー玉はどんな役目をしているの

ラムネのビー玉は「せん」の役割

ラムネは炭酸飲料の1つです。レモネードがなまって、ラムネとよばれるようになったといわれています。

このラムネは、1800年代にイギリス人のハイラム・コッドが発明しました。日本では、明治時代の後半からすでに飲まれていました。

ラムネは、せんを王かんやコルクではなく、ビー玉を使っているところに特ちょうがあります。

ラムネは、ガスの圧力を利用してせんをする

ラムネは酒石酸と重曹、さとうをまぜ、水を加えてとかしたものです。水を加えたときに二酸化炭素というガスが出ます。

ラムネに材料を入れ、水を加えるとすぐにびんをさかさまにします。すると、出たガスの圧力で、ビー玉がラムネの口に強くおしこまれ、しっかりとせんをするのです。

(監修 小川 格)

